社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック
代表取締役社長　稲垣良次

2024. 4
No.368

『磨かれた心』

昨年までの「社長塾」を変え〝企業理念を共に学ぶ会〟として今年から始めました。

〝塾〟というのは、上の者が一方的に教える場の意があるようです。イナテック75周年を2ケ年後に控え、イナテック50周年の時に制定したイナテック企業理念「確かな技術と磨かれた心で社会に貢献」を『社員の皆様へのメッセージ』や『イナテック社長塾』等を通して皆様に伝えてきました。

しかし、その考え方や解釈が理解されているか、最近少し疑問に思えるようになってきました。そこで課長以上の職制のメンバーで山本社長付（２Ｓ・企業理念推進担当）を司会者（ファシリテイター）として、皆様方の意見を出してもらいながら企業理念を共に学ぶことを始めた次第です。

たんでんじょうじゅうじつ
丹田常充実
（生きていく上で丹田が常に充実し、力が満たされることが大事という意味）

ちょうど月間致知の3月号にヒントになるフレーズを見つけましたので、皆さんに紹介いたします。

少しでも〝企業理念を共に学ぶ会〟で、又皆さんご自身の参考にして下さい。

百歳の時に三十年分の仕事の材料を買い込んでいた
平櫛田中（ひらくしでんちゅう）氏

「実践実践また実践
挑戦挑戦また挑戦
修練修練また修練
やってやれないことはない
やらずにできるわけがない
今やらずしていつできる
わしがやらねばだれがやる」

「六十七十は、はなたれこぞう。
おとこざかりは百から百から」

日本鋼管創業者　浅野総一郎氏

勉強とは学問だけでなく仕事を通じて自分を磨くことで、その勉強に真剣勝負の心構えで臨むことが必要

ユーグレナ社長　出雲充氏

先輩経営者の皆さん方はよい先生について学んだり、古典や『致知』を読んだりして学んでいるのだと痛感しました。やっぱりリーダーは自らの器を磨き高めて、長期的な目線に立って勉強されているから、会社を導いていけるんですね。

スタミナ苑　豊島雅信氏

大切なのは一所懸命やることじゃないの。一所懸命のその先に一歩進めるか、進めないか。それも他人のためではない、自分のためなんだから。包丁でものを切ることにしたって、いっぱい切っている人には敵わないって。

誰も見ていないところで努力する。いまもトイレの掃除は毎日自分でするし、絶対に手を抜かない。これが商売なの。自主的にやるしかない。それができないのはまだケツが青い証拠なんだ。手を抜いたら明日客が一人来なくなると思って自分を奮い立たせてきたね。

いつも目を光らせてお客さんがいま何を感じているか、何をしてほしいかを敏感に察知してすぐに動く。手を抜かずにやっていると、そういう感性が磨かれてくるんです。

社員の皆さん、イナテック企業理念の中の『磨かれた心』について前文を読みながら考えて欲しいのです。

『磨かれた心』の私の思いは、まず相手の人に向けてより自分自身を鍛える、律することのように思っています。つまり自分自身を修養する、鍛える、そしてそのうえで相手様のことを考えることではないかと思っています。

〝心を磨きつづける〟ことによって『磨かれた心』に近づいていく。それが大切なことだと考えています。もちろん利他の心も大切ですが、自分が何もできなくて他人様のためにといっても説得力がないようにも思います。

『心を磨く』には「まあいいや」という気持ちがあると〝心に雑草〟が生えてくる。〝心に余裕〟時間的余裕がないと〝心に雑草〟が生えてくるようにも経験上思います。

〝心の雑草〟を抜くことで『磨かれた心』に近づいていく。しかし〝心の雑草〟は常に生えてきます。だから修養と言えるのではないでしょうか。

努力を惜しまないこと

―頑張ることをあきらめない人に、

心の充足感は訪れる

（稲盛和夫「考え方」より）

勤勉

真面目に一生（一所）懸命に
働くという行為こそが、
人間を立派にしていきます。
苦労する経験を避けていった人で、
立派な人間性をつくり上げた人など
いないはずです。

先ほど前述の「心を磨く」「心の雑草」を常に抜く行為はやはり〝真面目に一所懸命やること〟しかないのであって、その人が立派になるということだと思います。

自ら一生（一所）懸命働くこともせずに、身に降りかかる災難を人のせいにしたり、社会のせいにしたりしている人がまま見受けられるように思えてしようがありません。

自分の境遇を変えることはできません。自らの外にばかり不幸の要因を求める限り、心のうちは永遠に満たされることはないはずです。一方、恵まれない境遇であったとしても、勤勉に働くことさえできれば、幸せをつかむことができます。

〝人のせいにする〟〝社会のせいにする〟のが今の世の中のようですが、やはり自分事として考え実行することが大切なのです。

先日の安全衛生委員会でアドバイスさせていただいたように、建物のせいにしたり設備のせいにしたりしてもきりがないと思っています。そこに整備不良があれば別ですが、まずは与えられた中で一所懸命やりつくすこと、使いつくすことが極めつけ、匠の第一歩ではないでしょうか。

苦労する経験を避けていった人で、立派な人間性をつくり上げた人などいないはずです。若いときから一生（一所）懸命に働き、苦労を重ね、自らを鍛え、『磨いていった人』こそが、人間性を高め、素晴らしい人生を生きることができるのです。

〝磨いた人〟の条件として、

他人のせいにしない

社会のせいにしない

一所懸命、人知れず、

身を粉にして働き続けること

これらを自分事としてやれることが『磨かれた心』に近づくことと私は考えております。

菜根譚後集

九九

遇病而後思強之爲寶、處亂而後思平之爲福、非蚤智也。倖福而先知其爲禍之本、貪生而先知其爲死之因、其卓見乎。

病に遇いて後に強の宝たるを思い、乱に処して後に平の福たるを思うは、蚤智にあらざるなり。福を倖いて先ず其の禍の本たるを知り、生を貪りて先ず其の死の因たるを知るは、其れ卓見なるか。